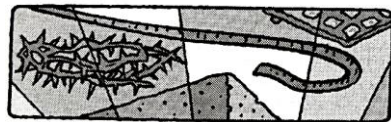


そう だい  
総 題 「詩編—神と人が心を通わせる場所」

だいきゅうか  
第9課

しゆくふく しゆ みな く ひと  
祝福あれ、主の御名によって来る人に



いそべ とよき  
磯部 豊喜

いち あんそくにちご  
1. 安息日午後

こんしゅう あんしよせいく しへん  
今週の暗唱聖句は、詩編118 (ひやくじゅうはち) 編 2 2、2 3 節です。「家造りらの捨てた石は隅のかしら石となった。これは主のなされた事でわれらの目には驚くべき事である。」(口語訳)と書かれています。イエス様はこの聖句は自分(イエス様)のことを指していると言われました(マルコ12章10~12節)。神の民と言われたユダヤ人たちに捨てられた石(イエス様)が、全人類の救いの土台石(救い主)になることをこの詩編が預言していたのです。この他にも詩編には、驚くほどイエス様についての預言があります。「…わたしが以前あなたがたと一緒にいた時分に話して聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する」(ルカ24章44節 口語訳)とあります。今回は、詩編の中にみられるキリスト預言に絞って学びます。

に にちようび じ こぎせいてき せい ひつじか  
2. 日曜日：自己犠牲的な聖なる羊飼い



まず詩編 2 3 編を開いて読みましょう。「主はわたしの牧者(羊飼い)であって、わたしには乏しいことがない・・・」。これは旧約聖書の中で最も多くの人々に愛されているもので、外国では葬儀や式典などでもよく使用されます。この詩は王様になる前に羊飼いをしていたダビデが、その経験から自分(ダビデ)を守り、導き、すべての必要を満たして下さる牧者なる神様にどれだけ感謝し、信頼したかを歌ったものですが、イエス様は、この「主なる牧者(羊飼い)」がご自分であると言われました。「わたしはよい羊飼いである。よい羊飼いは、羊のために命を捨てる。…わたしはよい羊飼いであって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。それはちょうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。そして、わたしは羊のために命を捨てるのである」(ヨハネ10章11、14、15節 口語訳)。自分の命さえ犠牲にされる良き羊飼いを表すこの二つの聖句を瞑想しましょう。

さん げつようび くろう  
**3. 月曜日：苦悩するメシア**

つぎ しへんにじゅうにへん み  
次に詩編 2 2 編を見てみましょう。この詩編は、メシア (救い主) がどのようなメシア (救い主) である  
よげん  
かが預言されています。その冒頭の1 節は、「わが神、わが神、なにゆえわたしを捨てられるのですか。…」とあり  
ますが、十字架に架けられた時のキリストの4 番目の御言葉です。これをイエス様が暗唱しておられたという人も  
いますが、もっと深い意味があります。きっとキリストが全人類の罪を負った結果、天の父との永遠の断絶 (第二  
の死) の苦しみを表した御言葉でしょう。キリストの死は、私どもが永遠に滅びる「第二の死」の身代わりであ  
ったことを瞑想させられます。



しへん ちょうしゃ  
この詩編の著者はダビデですが、1000 年 (せんねん) 以上後に登場するキリストの死を  
よげん  
預言していることは、驚きです。「人にそしられ」(6 節) のメシア、「心臓は、ろうのよう  
に、…溶け (⇒心臓破裂) (1 4 節) のメシア、「わたしの手と足を刺し貫」(1 6 節)  
かれるメシア、「着物をくじ引きに」(1 8 節) されるメシア…これらはキリストの十字架の  
ばめん よげん  
場面をそのまま預言していることが分かります。

よん かようび けいやく えいえん したが  
**4. 火曜日：契約に永遠に従う**

つぎ はちじゅうきゅうへん  
次に 8 9 編は、ダビデの王位が限りなく続くことと神の民が栄えることについての神さまの約束の  
みことば  
御言葉です。これをダビデ契約と呼んだりします。これは罪を悔い改めて神様とつながる人に対する約束にも  
なります。神の永遠の愛は、私たちを心からの悔い改めに導き、神との友情に戻らせてくださるので、そ  
の結果として罪はゆるされます。

かた わたし かみさま あい はな し いた かみさま かんけい  
このようなお方ですから、私たちは神様の愛のふところから離れてはいけません。死に至るまで、神様との関係  
も つづ  
を持ち続けていきたいものです。そうするならば、主はわたしたちを子として大切に受け止めてくださいます。

ご すいようび ひるい ちから も えいえん おう  
**5. 水曜日：比類なき力を持つ永遠の王**



つぎ しへんにへん ちゅうもく  
次に詩編2 編に注目しましょう。ここにはやがて来るべきメシアが、天にあげられた  
とき おう  
時に王としての戴冠式 (立てられる式) を預言しています。別の言葉では、キリストが王  
となるばかりでなく、大祭司としての務めをされることを記し、その主を賛美しています。  
「おまえはわたしの子だ。きょう、わたしはおまえを生んだ」(7 節) という御言葉は、へ  
ごしょうごせつ どうじょう  
ブライ5 章5 節にも登場します。主はわたしたちを統治する王であり、私たちの大祭司  
ちゅうほしゃ  
(仲保者) です。

ろく もくようび えいえん さいし  
**6. 木曜日：メルキゼデクのような永遠の祭司**

さいご せいぐ しへん べん えいえん さいし えいえん しはい  
最後の聖句は詩編110 (ひやくじゅつ) 編です。ここには永遠の祭司となり、永遠に支配  
されるというメッセージですが、これに当てはまるお方はイエス・キリスト以外には見当た  
りません。サレム (後のエルサレム) の王であり祭司であったメルキゼデクに相当するお  
方こそ、永遠の祭司イエス・キリストです。この事実<sup>じじつ</sup>は、他のどんな国の君主には足元  
にも及ばないことを教えています。このようなイエス・キリストを信じていることはなんと 幸<sup>さいわ</sup>いなことでしょう。



## しち きんようび けんきゅう 7. 金曜日：さらなる研究

いじょう まな せいぐ み わ じんせい しんせい けつごう かた  
以上、学んできた聖句を見て分かることは、キリストが人性と神性を結合されたお方であるということです。  
み こ かみ ひと わたし いた かな りかい てん かえ かみ  
御子 (神) が人となられたことによって私たちの痛みや悲しみを理解してください。また天に帰られ、神の  
み ざ つかれたことによって神の性質を持って人を救う力をもっておられます。キリスト「わたしは、道であり、  
しんり いのち かた ゆいいつ かた じゅうよんしょうろくせつ こうごやく  
真理であり、命である」と語れる唯一のお方です (ヨハネ 1 4 章 6 節 口語訳)。

はな あ しつもん  
(話し合いのための質問)

しへん ことば ふか かんけい しんこう はげ つよ  
詩編の言葉がイエス・キリストと深い関係があることはあなたの信仰を励まし、強めることになりましたか？